



茶樹の 生育周期は…

茶



農業経営支援課
福手 裕三

茶樹の一年間の生育周期は気候によって左右されますが、地上部と地下部が交互に生長する傾向が見られます。茶樹の生理からみると、根が養分を吸収しその力で葉が生長します。葉の炭素同化作用によって造られたデンプンは、芽へ送られて地上部が生長します。葉や芽が動いている間は、根の生長はごく緩やかで、芽が開いて生長が止まるとデンプンは根に送られ、発根や根の伸長が始まります。

茶樹の生長は、前年の樹勢や秋冬季までに蓄積された栄養分により左右されますので、二〜三番茶以降は翌年の収量増加と品質向上のための、養分蓄積に重点をおいた茶園管理が重要になります。

また、温度で見ると、地上部は気温が10℃

になる3月下旬〜4月上旬に萌芽が始まり、気温が15℃になる10月下旬まで生育します。一方で、根は地上部より早い3月上旬の8℃〜12月上旬の5℃まで生育活動をしています。

《茶樹を若くして生産を高める》

太い枝からは芽の生育も良く、品質・収量ともに良い結果が得られます。細い枝が多いと芽は小さくなり、品質・収量ともに低下します。

樹が古く、枝が細く、さらに葉が小さい茶園は計画的に改植をしましょう

《生産安定のための土づくり》

肥料の保肥力を高め、生産を安定させるた

めに、土づくりをしましょう。

茶園共進会などで、茶樹の地下部を確認すると、表層の有機物と土の層がはつきり分かれていることが多くあります。極端な場合は、有機物と土の間が加湿状態になり、根腐れが起きていることもあります。特に、乗用管理機を使う茶園は土壌が硬くなり、根が酸欠状態になっていることが見受けられます。

近年、作業性の問題などから、深耕や中耕を行っている茶園が少なくなりましたが、土壌の構造（物理性）を改善することで根の生育に適した環境を作ることができます。年間の管理計画を立てる中で、8月中旬〜9月上旬の深耕も検討してみてはいかがでしょうか？